

シルバーウッド

「スチールパネル工法」提案強化

低コスト・短納期 高齢者住宅で多用

鉄鋼部材の製造・販売
高齢者住宅の運営などを
手がけるシルバーウッド



（千葉県浦安市、下河原忠道社長）は、軽量鉄骨を使うことで建築費のコストを抑える「スチールパネル工法」＝写真の提案を強化している。

同工法は、同社が独自で開発した軽量鉄骨使用の2×4工法。主要鋼材に厚さ0・8ミリの2・2ミリのパネルを使ったため、重量鉄骨

よりRC造の建物と比較して重量が軽い。建物の総重量は重量鉄骨造の約3分の1、RC造の約7分の1となる。地盤が悪い土地に建てる場合でも大規模で高額な杭打ちが不要となる。

鋼材使用量が少ないことに加え、鋼材はすべて常時数千ト規模の在庫を持つ親会社である京江シヤリングから仕入れる同工法の減価償却期間

ことで低コスト実現を図る。建築資材の高騰で重量鉄骨、RC造の住宅建築費は坪単価90万～100万円だが、軽量鉄骨造の住宅は70万～75万円で推移している。

工期を短縮できるのも同工法のメリット。工場で鋼材を角型やC型に成形し、それらを外壁、床、屋根などの主要構造材としてパネル化まで行つた。

パネル化した部材を現場に搬入するため、構造躯体の建て方日数が短くなり、人件費も軽減できる。同工法の減価償却期間

は19年。重量鉄骨、RC造よりも短い。法定耐用年数は短い、プレハブ住宅に適用される「工業化住宅の耐久性に関する技術規定」で最高ランクの防錆処理となっている「溶融亜鉛めっき鋼板」を使用するため、高い耐久性を誇る。

同社によると、同工法は特に3～4階建ての共同住宅に適しているとい、近年は高齢者向け住宅で多く採用されている。